



1日(土)	2日(日)	3日(月)	4日(火)
10 6	30 50	3	3
札幌	18		

# 記者の視点

門田 誠

編集委員

僕の親は差別されてきました。親の親も差別されてきました。それをないことにされるのは寂しいんです。自分にも小学生の娘がいます。娘にも正直に生きていってほしいと思っております。あることをないことにはできないんです。

3月17日の午後、徳島市の八万中学校体育館。床に座った1、2年生に、しんじ(40)が話し掛けた。目には涙が浮かんでいた。はなちゃん(24)が言葉を つないだ。

「一番怖いのは無知である ということなんです。なぜか っつて言つと、子どもって何 ても親からまず教わるんで すよね。お母さんからあれ しない、これしないといっ て言われたら皆守るよね。」

親の言葉がすつこい強くて、そこでも知らなかったら、そのまま受け入れてしまふと思うのね。そうならんために、差別っていけないというのを学習しとかないといけないんじゃないかと私は思います。

「しんじ」と「はなちゃん」。2人は共に、同和地区に生まれ育った。この日は2学年合同の人権学習のゲストとして招かれた。

同和問題に関する教育は学校ですべきなのか、しなければそのうちになくなるのではないかという、教師から投げ掛けられた問いを巡り、生徒たちが意見発表している中で2人の発言が冒頭の言葉だ。

しんじは職場での経験を語った。筆箱に「〇〇〇はこの箱に触るな」と書かれていた。地区出身の当事者の心情を逆なです差別用語だった。「悔しかった」と振り返るとともに「こ

う差別と向き合う時間



八万中で行われた人権を巡る全体学習。手前からしんじ、はなちゃん、吉成さん＝徳島市

う差別に直面したときに、中学校での人権学習がすこい糧になった。書いた人に、自分の口で『これはおかしいこと』と説明ができた」と話し、差別が現実に残っている現状と人権教育の大切さを訴えた。

他にも、子どもの頃から今に至るまでさまざまな局面で、2人は差別を感じて

取材でこの時間を共にした。2人の言葉は生徒の心を揺さぶるのに十分な力が宿っていた。およそ2時間の授業中、次々と手が挙がり、約50人が発言した。

この人権学習を企画した吉成正士教諭は教師になって30年以上になる。当初、人権学習の難しさに悩んだ。自分が何も語れなかったためだ。教師5年目に着任した中学で、今回、八万で行った全体学習と呼ばれる人権学習法と出合ったことが転機となった。生徒が集まり、本音をぶつけ合

「全体学習の場で涙を流し発言する地区出身の子がいた。心が揺さぶられた。なんで泣くのか、誰が泣かしているのか。自分は何をしてきたのか。親の差別発言を容認してきてはいない

か。その時から自問自答が始まった」と話す。

部落差別は学校や職場で教育、啓発が進められてきたにもかかわらず、今も消え去っていない。差別を助長するインターネット上の書き込みは後を絶たず、2016年には部落差別解消推進法が成立した。

同和問題は、かねて「寝た子を起すな論」があった。学習しなければ知らずだ。学習しなれば知らずだ。吉成教諭はその視点に

「残念だが差別はゼロにならない。けれど限りなくゼロにしたい。全体学習で皆の意見を聞く中で自分の考えが右へ左へと揺れ、そうしているうちに自分なりの答えにたどり着く。この過程が大事だ」と学習の必要性を語る。

人を大事に思えるようになる、人とのつながりや出会いを大切に思えるようになる。それが人権学習の目的だろう。その先に差別のない社会がある。今もその社会課題はいささかも小さくならない。

## 差別と向き合う時間

### 八万中・吉成教諭学習の場づくり

徳島市の八万中学校教諭、吉成正士さん(56)が学校現場とは別に「人権」について学ぶ場づくりに取り組んでいる。長年、人権教育に携わる中で大切さを実感してきたと

徳島市北田宮4の自宅に活動拠点として「T-OVER 人権教育研究所」を既に開所。ホームページ(H.P.)も開設した。「共に超える」「トク・オーバー(じつくり話し合う)」などの意味を名前に込めた。松茂中教諭、森口健司さん(62)と2人で共同代表に就いた。

同和問題やいじめ、障害者、性別、性的少数者(LGBT)、人種などを巡る人権問題は後を絶たず、最近では新型コロナウイルスの感染者に対す

## 「人権」本音で語ろう

## 自宅に研究所開設 H.P.で情報発信も

る誹謗中傷なども深刻化する。差別のない社会の実現や生徒の成長にとって有意義だと痛感してきている。

吉成さんは、クラスや学年が交じって生徒や教師が発言する「全体学習」と呼ばれる学習法が、意見の違いを共に超え、認め合うという成果をもたらす点で有効だとする。人権教育研究所ではこうした学習法も用いながら、差別やいじめのない社会の実現を目指す。

吉成さんは「人権とは何か、差別とは、仲間と何かが、そういう根源的な問いに皆で向き合う時間

が、差別のない社会の実現や生徒の成長にとって有意義だと痛感してきている。

現や生徒の成長にとって有意義だと痛感してきている。

現や生徒の成長にとって有意義だと痛感してきている。

■新町西地区再開発監査請求 徳島市が撤町西地区再開発事業が地権者でつくる再開発和解金を支払う事態は遠藤彰良前市長の政誤りに起因するなど、市の男性(64)が30日、た損害計6億4330万円を補填(ほてん)するよう市に対して必要な措置を請求した。市は住民監査請求をした。請求書では、市が事業継続を望む組合に代替案や補償を提案せを白紙撤回した違法行為を被った」と指摘。市はたの組合に交付した計30万8千円について、味・無駄となった」として「行使しないのは権を怠るもので違法」として、国交省が手続き不

きのうの気温	30日15時まで(カッコ=平年)
最高	最低
徳島 24.8 (21.8)	9.7 (12.9)
池田 23.1 (21.8)	8.3 (9.4)
阿南 20.5 (20.5)	10.6 (13.0)

コロナ禍の高支援へ奨学金 大塚芳満記

公益財団法人・記念財団(鳴門市)から、高校生らに向けた奨学金制度を設ける。新型コロナウイルスの影響で経済的に苦境を支援するのが目的を希望する生徒がいる。

対象者は、県内のたは高等専門学校、終学年で、保護者帯総収入(税込み)0万円以下の生徒進学援助に50万円(度)、就学援助に(同)、専門高校休学(同)、専門高校休学(同)、専門高校休学(同)、専門高校休学(同)、専門高校休学(同)を給(2人程度)を給